

## #6 キリストの中に見いだされ、キリストを知り、

キリストを追い求める (メモリアル・デー特別集会) 2019/8/5-11

**I. パウロの願いは、キリストの中に見いだされることであって、自分自身の義を持つのではなく、「キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義」を持つことでした:** **ピリピ3:8** 私はまた、私の主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、私はすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくと勘定します。それは、私がキリストを獲得するためであり、9 そして、キリストの中に見いだされるためです。それは、律法に基づく私自身の義を持つのではなく、キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義を持って。

**A.** パウロの内側の深みには、彼の全存在がキリストに浸され、キリストで浸透されたいという切望がありました。それは、彼を観察したすべての人が、完全にキリストの中に彼を見いだすためでした。私たちもキリストの中に見いだされたいという切なる願いを持つべきです。

**B.** パウロはキリストの中に見いだされることを願いました。すなわち、自分自身の義を持つのではなく、神の義を持って、キリストを自分の主観的な、生かし出された義とする状態の中で見いだされることを願いました:**ピリピ3:9** そして、キリストの中に見いだされるためです。それは、律法に基づく私自身の義を持つのではなく、キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義を持って。

**1.** キリストが信者の義となることには二つの面があります:  
**a.** 第一の面は、信者が神によって客観的に義とされるために、キリストが彼らの義となるということです。**b.** 第二の面は、キリストが信者から生かし出された彼らの義となつて、神の現れとなるということです。神はキリストにあって、信者が主観的に義とされるために彼らに与えられた義です。

**2.** **ピリピ3:9**における神の主観的な義は、実は神と人に対して正しい私たちの日常生活となる神ご自身です:

**a.** パウロは彼自身の義の中で生きることを願いませんでした。その義とは、人が自分の努力で律法を守ることによって持つ義です。**b.** パウロは、神の義の中で生き、キリストを生きることによって神を表現する状態の中に見いだされることを願いました。もし私たちがキリストの中に見いだされようとするなら、このような状態の中にいなければなりません。

**C.** 信仰は、私たちが神から来る義(キリスト)を受け入れて所有する基礎、条件です。**I コリント1:30** しかし、あなたがたがキリスト・イエスの中にあるのは、神によるのです。このキリスト・イエスは、神から私たちに与えられた知恵、すなわち、義と聖別と贖いとされました。

**II. パウロは、彼自身の義ではなく、神からの義を持つ状態の中に生きました。それは、キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り(経験し)、彼の死に同形化されて、格別な復活に到達するためでした:** **A.** キリストを知る知識の卓越性を持つことは啓示によりますが、キリストを知ることは経験によります。すなわち、彼を経験上、知ることによります:**ピリピ3:8** 私はまた、私の主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、私はすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくと勘定します。それは、私がキリストを獲得するためであり、**10** キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、

**1.** キリストを経験することは、キリストを経験上、知り、享受することです。**2.** キリストを知ることは、彼を知る知識を持つだけでなく、彼のパーソンを獲得することです。

**3.** キリストを獲得することは、代価を払うことによって、彼

の計り知れない豊富すべてを経験し、享受し、所有することです。**4.** 私たちは、キリストを経験し、享受し、彼と一になり、彼に私たちの内側で生きていただくことによって、彼を知る必要があります。私たちはこのようにして、啓示と経験によって彼を知るようになります。

**B.** パウロは、キリストの復活の力と彼の苦難の交わりとを知ることを熱心に求めました:**ピリピ3:10** キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、**1.** キリストの復活の力は、彼を死人の中から復活させた彼の復活の命です:**エペソ1:18** あなたがたが…

**19** 神の力強い大能の活動にしたがって、信じる私たちに働く彼の力が、どんなに超越して偉大であるかを知るように。**20** 神は、その力をキリストの内に働かせて、彼を死人の中から復活させ、彼を天上でご自身の右に座らせ。

**a.** その霊は、キリストの復活とその力との実際です。

**b.** その霊はキリストの復活とその力と複合されており、私たちの霊に内住して、キリストの復活とその力を私たちの全存在の中へと分与しています。**c.** もし私たちが自分自身をわきに置いて、十字架の死の下にとどまっているなら、キリストの復活の力を経験するようになり、そして私たちが経験する復活の力は自然に、からだを建造するようになります。

**2.** **ピリピ3:10**の「彼の苦難の交わり」という表現は、キリストの苦難にあずかることを指しています。これは、彼の復活の力を経験するための必要条件です:**a.** 私たちはまずキリストの復活の力を経験し、それからこの力によって、彼の苦難にあずかることができるようになります。**b.** これらの苦難はおもに、キリストのからだ、すなわち召会のためです。

**C.** **ピリピ3:10**はまた「彼の死に同形化されること」について語っています。これはパウロがキリストの死を自分の生活の鑄型とするのを願ったことを示しています:**ピリピ3:10** キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、**1.** キリストの死に同形化されることは、キリストを経験することの基礎です。**2.** キリストの死の鑄型は、キリストが絶えず彼の天然の命を死に渡して、神の命によって生きたことを指しています。**3.** 私たちはキリストの死に同形化されることによって、彼の死において彼を経験して、命を解き放ち、分け与え、増殖させます。私たちはまた、御父の栄光を現します。**ヨハネ12:24** まことに、まことに、私はあなたがたに言う、一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが死んだなら、多くの実を結ぶ。

**D.** キリストの死に同形化されることの結果は、私たちが死人の中からの格別な復活に到達することです。それは勝利者に対する賞となります:**ピリピ3:10** 彼の死に同形化されて、**11** 何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。**1.** 格別な復活に到達すること、達することは、私たちの全存在が徐々に、また絶えず復活させられることを意味します。**2.** 格別な復活は、旧創造から出て新創造の中へと入る復活です。

**III. 私たちはパウロのように、キリストご自身を追い求め、「賞を得るために、目標に向かって追い求め」るべきです:** **ピリピ3:14** キリスト・イエスの中で私を上を召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています。

**A.** 私たちはキリストを追い求めるために、自分がすでに到達したと思うべきではなく、後ろにあるものを忘れて、「前にあるものに向かって」体を伸ばすべきです。

**B.** 私たちが追い求めている目標は、キリストを満ち満ちた程度にまで享受し獲得することです。その賞は、千年王国におけるキリストに対する極みまでの享受であり、それは新約のレースで勝利を得た走者に対する褒賞です。

## Crucial Points(1): キリストの中にある人として見いだされる

**OL1:**パウロの願いは、キリストの中に見いだされることであって、自分自身の義を持つのではなく、「キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義」を持つことでした。**OL2:**パウロの内側の深みには、彼の全存在がキリストに浸され、キリストで浸透されたいという切望がありました。それは、彼を観察したすべての人が、完全にキリストの中に彼を見いだすためでした。私たちもキリストの中に見いだされたいという切なる願いを持つべきです。**OL3:**キリストが信者の義となることには二つの面があります。第一の面は、信者が神によって客観的に義とされるために、キリストが彼らの義となるということです。第二の面は、キリストが信者から生かし出された彼らの義となって、神の現れとなるということです。神はキリストにあって、信者が主観的に義とされるために彼らに与えられた義です。**ピリピ3:9** そして、キリストの中に見いだされるためです。それは、律法に基づく私自身の義を持つのではなく、キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に基づく神からの義を持って、

キリストの中に見いだされることの教理的な理解を持つのは一つの事であり、私たちの日常生活の中でキリストの中に見いだされるのは全く別の事です。私が家庭にいるあなたを訪問するなら、あなたをどこに見いだすでしょうか？ 私はあなたを善い振る舞いの中に見いだすでしょうか、それともキリストの中に見いだすでしょうか？ 人が私たちを観察する時、私たちがどこにいるかは、私たちが生きている領域を示します。もし文化の中に生きているなら、私たちは他の人によって、文化の中に見いだされるでしょう。もし善い振る舞いの中に生きているなら、私たちは他の人によって、私たちの振る舞いの中に見いだされるでしょう。私たちがどの領域の中に生きていても、それが、私たちが他の人によって見られ、観察され、発見される場所です。パウロはまだ律法によって生きていた時、律法の中に見いだされました。しかしある日、彼はキリストを知る知識の卓越性を持ち始めました。彼は、キリストが彼のあらゆるもの、すなわち愛、親切、へりくだり、知恵、忍耐、意図、態度、彼の言葉、発言、表現でさえなければならぬというビジョンを見ました。キリストを知る知識のこの卓越性のゆえに、彼は進んですべての事を損失であると勘定しました。

### 適用: 奉仕者編

あなたは召会の奉仕者として、毎週、福音と牧養のために出て行ってください。出て行って、6種類の新人に接触する時、あなたは自分がどのようにみられることを期待するでしょうか？ ある人は自分を日本文化の中の良い人であると見られることを期待しています。別の人は、賢い人であると見られたいと期待しています。ある姉妹は育ちの良い上品な婦人であると見られることを、ある兄弟は能力の高い人であると見られることを期待しています。しかしパウロは自分を、「キリストの中にいる人」と見られることを期待しました。パウロはあなたの模範です。米国の著名な会社GEは、20世紀で最も優れた会社の一つであると言われています。この会社の幹部社員は休日でもドレス・コードが定められており、一定の標準を保つように要求されています。それはこの会社の幹部社員は一般人よりも優れていると見られることを期待しているからです。

今、あなたはキリスト・イエスの奉仕者です。神のエコノミーの中の極めて重要な点は、キリストの分与を享受することとキリストを個人的にも団体的にも大きく表現することです。神のエコノミーの基本的な路線は、神の分与と神の表現です。**ピリピ書の「あなたがたの祈り求めることと、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給(1:19)」、「あなた**

**がたの内で活動する神(2:13)、「彼らの間で世にあって発光体のように輝き、命の言を提供する(2:15~16)」などはすべて神の分与と表現のためです。あなたは奉仕者として、思いの更新により価値観が変えられるべきです。**

キリストの中に見いだされることは、キリストを大きく表現することであり、あなたからキリストが義として生かし出されることです。義とは正常で正しいことです。あなたは人、事物において完全に義であるキリストを生かし出してください。**祈り:「おお主イエスよ、私はキリスト・イエスの真の奉仕者になりたいです。そのような奉仕者は、キリストのからだの建造のために、人々にキリストの中に見いだされ、キリストを人々に分与します。私には、まだ神のエコノミーにそぐわない、文化的な、自分なりの価値観があります。私の思いを更新して、私の価値観を変えてください。私は生活と奉仕において、人々に『キリストの中にある人』と見いだされたいのです。アーメン！」**

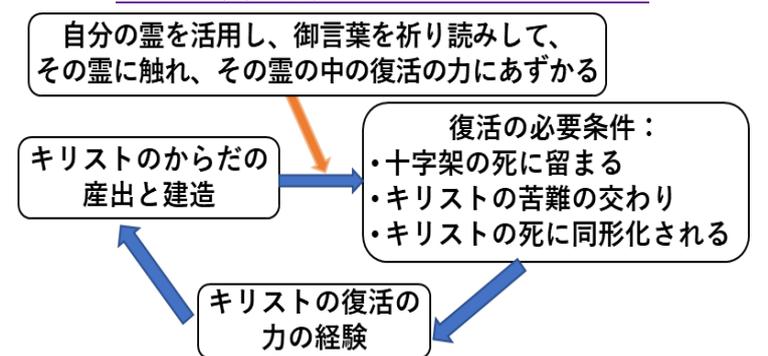
## Crucial Points(2): 復活の力によって、十字架、復活、からだのサイクルに入る

**ピリピ3:10** キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、

**FN「彼の苦難の交わり」:**キリストには、苦難と死が先に来て、復活が続きました。私たちには、彼の復活の力がまず来て、彼の苦難の交わりと彼の死に同形化されることが続きます。私たちはまず、彼の復活の力を受けます。次に、この力によって彼の苦難にあずかり、彼の死に同形化され、十字架につけられた命を生きてことができます。そのような苦難はおもにキリストのからだを生み出し、建造するためです。

**OL1:**もし私たちが自分自身をわきに置いて、十字架の下にとどまっているなら、キリストの復活の力を経験するようになり、そして私たちが経験する復活の力は自然に、からだを建造するようになります。**OL2:**私たちはまずキリストの復活の力を経験し、それからこの力によって、彼の苦難にあずかることができるようになります。これらの苦難はおもに、キリストのからだ、すなわち召会のためです。

### 復活の力によって、十字架、復活、からだのサイクルに入る



キリストの死に同形化されることが、キリストの経験の基礎です。もし私たちがキリストの死に同形化されていないなら、キリストを経験するための基礎がありません。キリストを経験するためには、彼の死に同形化されなければなりません。しかしキリストの死に同形化されるためには、彼の苦難の交わりを持たなければなりません。キリストの苦難にあずかることによって、私たちは彼の復活の力を経験する地位に導き入れられます。そしてキリストの復活の力を経験する時、私たちは彼を知るのです。

もし未信者たちが自分自身をわきに置くなら、何も残りません。なぜなら、彼らは内側に残っているものとしてのその霊を持っていないからです。私たちは異なります。もし私たちが自分自身をわきに置くなら、私たちは内側に残っているものとしてのその霊を持つようになります。わき

に置かれるものは自己であり、残るものはその霊です。もし妻が議論してくるとき、兄弟が自分自身をわきに置くなれば、その霊が出て来ます。これが復活の力です。私たちは一つの事だけを行なう必要があります。それは、いつも自分自身をわきに置くことです。この事を行なうことは自己を死の下に置き、それを十字架の上に保つことです。この事を行なうとき、私たちは十字架につけられた生活をして、復活の力が現されるための基礎を持ちます。

キリストの復活の力を享受するのはすばらしいのですが、復活の力はおもに私たちの享受のためではありません。神のエコノミーの中には利己的な享受はありません。キリストの復活の力は、からだを生み出し、建造するためです。…もし自分自身をわきに置き、十字架の死の下にとどまるなら、私たちは復活の力を享受するでしょう。直ちに復活の力はからだを生み出します。からだを生み出し、建造するこの目標は、反対を引き起こします。サタンはこの目標を知っており、それに対して反対を引き起こします。…反対が起こると、私たちは苦しみます。このようにして、私たちはキリストの苦難の交わりへと入ります。…コロサイ1:24によれば、これらの苦難はからだのためです。

### 適用:青年在職、大学院生編

キリストの経験と享受についての書であるピリピ書の中で、あなたは十字架→復活→からだのサイクルを見ることができます。このサイクルの十字架を経験するため、あなたはその霊の中の復活の力に触れる必要があります。あなたが霊を活用し、パートナーと一緒に祈り読みし、祈っている時、あるいは詩歌を個人的にまた団体的に享受している時、あなたはその霊の中の復活の力にあずかっているのです。この復活の力によって、信者は十字架の下に留まることができます。キリストの場合は十字架があり、その後、復活がありました。しかしあなたの経験からすると、復活の力によって十字架を経験するのです。十字架は復活のための必要条件ですので、十字架を経験すればするほど、ますます復活の力を体験することができます。

例えばあなたの職場の人間関係がこじれて大変なことになったとします。この時あなたが普段から朝ごとの復興を実行して、その霊の中の復活の力にあずかっているなら、この困難な状況の中で、あなたは十字架に留まることができます。ところがあなたが毎朝復興を実行していないなら、十字架に留まるべきであることが分かっていますが、留まる力がありません。そして肉に従って行動するので、ますます状況は悪化します。しかしこの困難な状況で十字架を経験すると、復活を経験することができます。そしてあなたにストレス耐性があることが周囲に認められて、上司や人事から良い評判を得ることができます。

祈り:「おお主イエスよ、復活の大能のゆえに、十字架を愛します。死を通してのみ、命は成長します(詩歌464)。十字架、復活の力、からだの建造は、循環するサイクルです。このサイクルに入るために、まず私は毎朝復興を実行して、その霊に触れ、その霊の中の復活の力にあずかります。そうでなければこのサイクルの中に入るための力がありません。職場などで苦難がありますが十字架と復活を経験して、突破させてください。この突破の経験は、第一にキリストのからだを建造するためであり、第二に私のビジネス・ライフのためです。アーメン！」

**Crucial Points(3): 自分自身捕らえたとは思わず、ただ一つの事、後ろにあるものを忘れて、前に向かって体を伸ばしつつ、キリストを追い求める**

**OL1:**キリストの死に同形化されることの結果は、私たちが死人の中からの格別な復活に到達することです。それは

勝利者に対する賞となります。

**OL2:**私たちが追い求めている目標は、キリストを満ち満ちた程度にまで享受し獲得することです。その賞は、千年王国におけるキリストに対する極みまでの享受であり、それは新約のレースで勝利を得た走者に対する褒賞です。**ピリピ3:11** 何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。…**13** 兄弟たちよ、私はまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ一つの事、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、**14** キリスト・イエスの中で私を上を召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています。

パウロは賞を得ようと目標に向かって追い求めています。キリストはその目標と賞の両方です。目標は、キリストを満ち満ちた程度にまで享受し得ることであり、その賞は、千年王国におけるキリストに対する極みまでの享受であり、それは新約のレースで勝利を得た走者に対する褒賞です。目標に到達して賞を得るために、パウロは後ろにあるものを忘れ、前にあるものに向かって体を伸ばすことを訓練しました。格別な復活と呼ばれた復活のこの特別な分け前を得るために、私たちは追い求め、レースを走り、私たちの行程を勝利のうちに終えなければなりません。

パウロのように、私たちは再生されましたが、まだ命において完成され、円熟してはいません。私たちが回心の時、キリストによって獲得されたのは、キリストを獲得するためです。今や、まだ得ていない、まだ完成されていない者として、私たちはキリストを追い求めています。キリストを追い求める道の第一の面は、私たちが自分自身、得たとは考えないことです。第二の面は、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばすことです。

この格別な復活は、高校を卒業するクラスの少数の者の経験で説明することができます。卒業の時、少数の際立った学生は特別な分け前を享受します。…同じように、主が戻って来られる前に死んだすべての信者は復活させられますが、何人かが傑出した復活、際立った復活を享受するでしょう。…「追い求める」というギリシャ語は、「迫害する」とも訳すことができます。パウロは救われる前、消極的な方法でキリストを迫害していました。パウロは救われた後、積極的な方法でキリストを迫害するとさえ言うほどにまで、キリストを追い求めました。

### 適用:青少年、大学生編

あなたは若い時からキリストを追い求めてください。「追い求める」と訳されたギリシャ語は、「迫害する」という意味を含んでいます。あなたは積極的な意味でキリストに押し迫り、迫害してください。追い求める道は、第一にすでに達成したと考えることです。第二は後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばすことです。過去の成功体験を忘れ、現在のキリストを経験するために、主に開き続ける必要があります。それはあなたが留まることなく前進するためです。

四字熟語に「栄枯盛衰」という言葉があり、それは栄えたり衰えたりを繰り返す人の世のはかなさを言っています。栄枯盛衰の原因は、過去の成功体験に留まり続けることです。時代は変わり環境も変わっているのに、過去の成功に留まり続けると、過去の成功は現在の失敗の原因になってしまいます。

シャープという日本企業の飛躍の原因は液晶技術でした。しかし世界で最も優れたこの液晶製造技術への過大投資が後で失敗の原因になりました。それは台湾、韓国、中国などの国々が、技術的には最高でなくても、安価で優れた製品を製造するようになり、技術的には最高で

あっても価格が高すぎるシャープ製品を買わなくなったからです。費用対効果のバランスが悪くなったのです。

祈り:「おお主イエスよ、私は格別な復活に到達し、勝利者になりたいです。そのため過去の成功体験に留まらず、今の聖霊の流れに飛び込み、体を伸ばしてキリストを追い求め続けることが重要です。主よ、私をあわれんで、過去の成功のゆえにあなたに閉ざしてしまうことから救ってください。私は開き続ける器になり、あなたを追い求め続けます」。

### 高い福音(新人用) 第16課 迫害に直面する

I ペテロ 4:14 キリストの御名の中でそしられるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくさるからです。

キリストの御名の中でそしられるなら、幸いである

「キリストの御名の中」は、実は「キリストのパーソンの中」、「キリストご自身の中」を意味します。名はその人を示すからです。信者たちはキリストの中へと信じ入り、また彼の御名の中へと、彼ご自身の中へとバプテスマし込まれたので、キリストの中にあります。そして彼とひとつです。彼らが彼の御名の中でそしられる時、彼らは彼と共にそしられ、彼の苦難にあずかり、彼の苦難の交わりの中にいるのです。

私たちの受ける迫害がキリストのもろもろの苦難である理由は、私たちがキリストの御名の中で苦しむからです。14 節のペテロの言葉によると、もし私たちがキリストの御名の中でそしられるなら、私たちは祝福されています。キリストの御名の中でそしられることは、のろいであると考えてはなりません。これは祝福です。しかしながら、もし人々が私たちがあまりにも高く評価しすぎるなら、それはのろいであるかもしれません。この事柄に関して、私たちは観念を変える必要があります。

### 苦難を受け、迫害されればされるほど、ますます栄光が私たちの上にある

私たちが苦難を受け、迫害されればされるほど、ますます栄光が私たちの上にあるでしょう。これは真に祝福です。私は自分が迫害されまた悪口を言われれば言われるほど、ますます力付けられることを証しできます。迫害とそしりは私を抑えつけません。反対に、それは私を持ち上げます。こういうわけで、私たちはキリストの御名の中でそしられる時、喜ぶべきです。なぜなら栄光の霊が私たちの上にとどまっているからです。

### いったん人が神に向きを変えると、

### サタンは他の人たちをそそのかしてその人を迫害させる

全世界は悪しき者、サタンの中に横たわっています。サタンは絶えず、できる限りの方法で神に反対します。サタンは人が神に向きを変えるときはいつも喜ばず、これを容認しません。いったん人が神に向きを変えると、サタンは他の人たちをそそのかして、その人を迫害させます。パウロはかつて、私たちクリスチャンは迫害を受けるように定められていると言いました。ですから迫害は、キリストにある信者としての私たちに定められた分け前です。

迫害は一種の苦難です。試練は苦しみを受けるだけでなく、さらに私たちをテストする目的のための苦難です。私たちは学校の期末試験を例証として用いてもよいでしょう。学生たちは、期末試験が真の苦難また試練となり得ることを知っています。しかしそのような試練は、実は学生たちにとって助けです。もし学校に期末試験がなかったなら、学生たちはおそらく自分の勉強について不注意になるでしょう。しかし期末試験が近づくのを知るとき、彼らは勤勉に勉強に集中します。ですから、期末試験は学生が必要な題材を学ぶのを助けます。こういうわけで、学生の両親は、期末試験が彼らの子供たちに益を得させるのを助け

ることを知って、これに感謝するべきです。

「霊的教育の学校」にも「期末」また他の種類の「試験」があります。この学校の「校長」は私たちの天の御父です。彼は私たちのために異なる試み、異なるテストを案配されました。このすべての試練は私たちのために良いのです。試験が学生たちに良いように、私たちがクリスチャンとして直面するさまざまな試練は、私たちにとって有益であるのです。

期末試験は学生に試練を与え、テストし、評価するという三重の目的に役立ちます。同様に、私たちが信仰として通過しなければならないさまざまな試練は、私たちを試み、テストし、評価する目的に役立ちます。これらの試練は確かに、私たちの実行上のクリスチャンの完成における助けです。なぜなら神は、それらを用いて私たちを完成するからです。反対者たちは、神の訪れの日に神に栄光を帰すようになる

I ペテロ 2:12でペテロは、「また異邦人の間では、卓越した生活態度でありなさい。それは、彼らがあなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたの良い行ないを自分の目でよく見て、神の訪れの日に、神に栄光を帰すようになるためです」と言っています。この節でペテロは聖徒たちに告げているかのようです。「反対者たちは今、あなたがたを悪人呼ばわりしています。しかしもしあなたがたが彼らの中で卓越した生活、質において美しくまた態度において卓越した生活をするなら、彼らはあなたがたの善いわざをよくよく見て、訪れの日に神をあがめるでしょう。彼らはあなたがたをながめて、あなたがたが神の訪れの下にいることを認識するでしょう。結局、その結果は神への栄光であるでしょう。というのは、反対者たちは訪れの日に神をあがめるからです」。

私たちは長年、何度もペテロの言葉が成就されたのを見てきことを証しできます。彼らは神が聖徒たちを訪問されるのを見たので、多数の反対者たちは自分たちのやってきたことを後悔し、また悔い改めました。聖徒たちは神の訪れの日に、神の愛の顧みの下にありました。これらの聖徒たちは悪口を言われましたが、神の恵み深い顧みの下で驚くべき、卓越した生活をしました。こういうわけで、神は何度も何度も彼らを訪れられました。彼らの卓越した生活態度と神の訪れは結局、反対者たちを悔い改めさせまた神に栄光を帰させました。

### 反対者たちは、私たちの命の変化のゆえに態度を変える

主の回復の中の若者たちは彼らの両親に反対されました。数年前、ある若者の両親は彼に強く反対したかもしれません。両親は、どうして彼が教会の集会また務めの集会にそんなにも多くの時間を取って参加するのだろうと怪しみました。しかし次第に彼の生活態度が変わってきたことを見ました。両親はそれをうまく説明することができませんでしたが、息子の中での主の造り変えの御業を証しすることはできました。ついに両親は、息子が神の顧みの下にいる人、神の訪れの下にいる人であることを認識するに至りました。

以前、多くの聖徒たちが集会で、このような証しをしました。彼らは過去両親に反対され、ある場合には、迫害さえされたと言いました。しかし徐々に、一定期間の後、彼らの両親の態度が変わり始めました。その若者が家族を訪問するために家に帰った時、彼らの両親は彼に反対し続けました。しかし彼らはまた、注意深く彼らの子供たちを観察していました。少しずつ反対が少なくなり、さらに多く観察するようになりました。ついに両親は完全に態度を変えました。そしてある場合には、彼らもまた召会生活に入ってきました。彼らは自分たちの子供の卓越した生活態度を観察し、そして彼らは訪れの日に神に栄光を帰したのです。(詩歌 469 十字架の道)